



るらてる



2017年
6月
No.834

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教「対話と協働をもたらし力」

日本福音ルーテル三鷹教会 牧師 李 明生

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムは天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あつげにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」(使徒言行録2:1-11)

使徒言行録2章に描かれる聖霊降臨は、教会の誕生の出来事と呼ばれることも少なくありません。主イエスが弟子たちを地上に残して天へと昇られた後、聖霊を受けた弟子達は、イエスが救い主キリストであることを世に宣べ伝えてゆくことを世に宣べ伝えてゆくこととなります。しかしそれは客観的に考えるならば大変奇妙な展開であったと言わざるを得ないのではないのでしょうか。なぜならば、彼らが宣べ伝えるイエスとは、仲間から見捨てられ処刑された世の中の敗北者でしかなかったからです。



してこの弟子たちこそ、都を目指してイエスとやって来たものの、自分たちの期待通りにはならなかったイエスを見捨てた者たちではないか。そればかりではなく、この後、都で始まった最初の教会は、まもなくして追いつ散らされてしまつたのです。一体なぜ、生まれたばかりの教会は消滅してしまつたのか、その後もし生き残り、広がり続けることが出来たのでしょうか。

使徒言行録2章では、弟子たちの上に「炎のような舌が現れ、一人一人の上にとどまると、聖霊に満たさ

れ、口々に「ほかの国々の言葉」を話し始めます。原文では「舌」と「言葉」は同じ語が用いられていることから、この炎が弟子たちに様々な国の言葉で語る力だつたというところを、この物語は伝えていきます。9-11節では、ユダヤの周辺の国々から、そしてさらにはローマからもやって来た者達までもが、その言葉を聞き驚いたことが語られています。

言葉が通じないこと、それは相互に信頼を築くことを阻み、人と人とを分断する見えない壁の最たるものであります。しかし見えない神の力である聖霊に満たされた弟子たちは、その見えない壁を乗り越えるのです。そしてまたそのために、全ての人が皆同じ一つの言葉を話すようになったのではなく、弟子たちが様々な国の言葉で語り始め



たということとはとても興味深い点であるように思うのです。

聖霊を与えられた弟子たちは、見た目の上ではばばらに語り始めます。それを内向きの視点で見ると、ばばら、分裂であり、調和が失われた状態であるように受け取られるかもしれません。けれども聖霊に満たされた彼らは、部屋の中には留まらず、外へ新しい世界へと押し出されてゆくのです。弟子たちが様々な国の言葉をが都において話し始めた時、内へ内へと向かっていった弟子たちは、外なる世界へと開かれることになるのです。そしてこれまでも出会ったことのない人々と福音を分かち合うこと、社会の周縁へと追いやられた人々と喜びを分かち合うことへと押し出され、部屋のなかから踏み出してゆくのです。それはまさに弟子たちの集団にとって決定的な転換点であり、教会の出発点となったのでした。

分裂のようには見えなかった姿は、実は新しい命に生

きる共同体が生まれたこと、そこから新しい時代が始まったことを表すものとなったのでした。この新しい共同体はやがてエルサレムから散らされてゆくことになり、しかし新しい命へと押し出された彼らは、散らされた先でまた福音の喜びを分かち合うために共に働くこととなるのでした。

かつて弟子たちが新しい命へと押し出されて新しい時代が始まったことにより、今私たちの教会があります。かつて弟子たちに新しい命を与えた力は、今も生きる私たちをもまた、新しい時代、新しい命を生きさせる力でもあります。それは壁を乗り越え喜びを分かち合い、多様なあり方を通じて共に働くことが出来る、まだ誰も知らない道へと私たちを導く力なので

ルターの宗教改革から500年となる今、分断され傷つけられた世界の中で共に働くために、教会の対話と協働とが大きな主題となっています。それはまだ誰も体験したことのない、新しい挑戦です。けれども、弟子たちを満ちた聖霊によつて今も私たちキリストの教会は支え導かれているのです。だからこそ、対話と協働を作り出す、新しい時代へと歩みだしてゆきたいと思ひます。



⑮ 【Identity】

主イエスが十字架で処刑されたとき罪状書きには「ユダヤ人の王」と記されています(マルコ15:26)。これは主イエスが政治犯として処刑されたことを意味しています。なぜなら、それがユダヤの地を支配していたローマ帝国に対する敵対者であることを意味するからです。しかし、ローマ帝国の提督プラトが、「彼は() いったいどんな悪事を働いたのか()」(マルコ15:14)と言っているように、宗王国はそう考えてはいませんでした。また主イエス自身「それはあなたが言っていることです()」(マルコ15:2)と尋問に答えているように、「ユダヤ人の王」を自称し、国民的統合を目指したのもありません。

たのは、当時のユダヤの地において社会的利益を享受していた支配層と受益機会から疎外されていた弱者層の人たち、つまり同胞の人たちだったのです。本来、利害が一致しない支配層と弱者層が犯人を名指し「十字架につける」と憎悪を梃子(てこ)に強く結びつけたのです。

私たちは現在、これと同じ構造を目の当たりにしています。生活保護受給者が在日韓国・朝鮮人、沖縄基地問題や原発問題を訴える人たちへ向けられる憎悪を梃子にしたナシヨナリズム、他者を「反日」と攻撃するヘイトスピーチとして、また現在審議中の「共謀罪」法案は、それらにお墨付きを与えるものになるのではないのでしょうか。これからの伝道は、憎悪を燃料に共同体への帰属感を抱く人々たちに対して、「おのおの必要に応じて、皆が分け合う()」(使徒2:45) 共同体へ帰属することの喜びを伝えていくことなのかもしれません。

主イエスを、政治犯として宗王国に引き渡し、国民的統合を阻害した者と断罪したのもありません。

岩切雄太
(門司教会、八幡教会、佐賀教会、小城教会牧師)

宗教改革 500 年記念
ルーテル教会 合同 聖餐 礼拝

7月17日(祝) 13時

ルーテル大阪教会



議長室から

先月、日本ルーテル教会(NRK)の宗教改革500年を祝う祝典に招かれました。記念事業の一環として、聖書通読運動『現代に語りかけるルター』などの出版事業、神学生や皆の祈りの場として新築されるルターハウスのことが紹介され、たくさんの刺激を受けました。

「足元のエキュメニカルから」

総会議長 立山忠浩

二致促進運動の流れを汲んだもので、視野を大きく広げた企画と言えるでしょう。ところが、私たちの視野はまだ狭いことを改めて教えられることがありました。カトリックの教皇がエジプトのカイロを

訪問したとの報道を目にしたからです。そこではイスラム教の指導者たちと宗教間の対話を求めている姿が映し出されていきました。キリスト教会内の対話や一致のみを視野に置くのではなく、イスラム教など他宗教との

500年の歴史を継承する私たちの視野も、本来大きいものでなければなりませんと感じています。私たちの基盤である聖書が、限りなく大きな視野を提示しているからです。ただここで、あまりにも現実離れた大きな視野

NRKとは共にルーテル学院大学・神学校を支援して来ましたが、北海道には合同のプログラムがあり、11月には東教区との500年記念の合同礼拝が行われます。それだけでなく、近畿福音ルーテル教会と西日本福音ルーテル教会とも7月に、西教区との合同礼拝が企画されています。『聖書日課』は4ルーテル教会・教団に留まらず、さらに広がりをもったエキュメニカルな活動です。

500年事業を通して、足元のルーテル派内での共同の業がさらに促進され、より広い視野に向かう一歩が踏み出せるなら幸いなことでしょう。

宗教改革500年の時にルターと宗教改革の意義や価値を学ぶと同時に、ルターを英雄視せず、宗教改革は「信仰の異なる者を排除、迫害、殺害していった傷つけ合いの歴史でもある」(ポスター本文より)ことを振り返ることは、ここから平和への道を紡ぎ出していくために必要なことであると思います。

また、大使館・領事館へ大型パネル(A1サイズ)の貸出を依頼するという形を取ることも不可能ではありません。九州教区では10月に予定されている記念礼拝時に会場となる学校での展示のために貸出を受ける調整がなされているようです。

また放射能計測の必要性は食品の放射性物質含有量への不安に対応する点です。計測所が併設されている、常磐教会の集会室・会堂を用いた被災者受け入れのプログラムも盛んに行われています。主なものは、双葉町からいわき市に移住してきている「いわきまごころ双葉会」という140世帯ぐらゐが参加するヨガや裁縫料理教室などが行われる月2回のグループです。この方々を対象として呼びかけられるコンサートも1年に2〜3回は開催されるようになりました。

また放射能計測の必要は食品の放射性物質含有量への不安に対応する点です。計測所が併設されている、常磐教会の集会室・会堂を用いた被災者受け入れのプログラムも盛んに行われています。主なものは、双葉町からいわき市に移住してきている「いわきまごころ双葉会」という140世帯ぐらゐが参加するヨガや裁縫料理教室などが行われる月2回のグループです。この方々を対象として呼びかけられるコンサートも1年に2〜3回は開催されるようになりました。

また、大使館・領事館へ大型パネル(A1サイズ)の貸出を依頼するという形を取ることも不可能ではありません。九州教区では10月に予定されている記念礼拝時に会場となる学校での展示のために貸出を受ける調整がなされているようです。

また、大使館・領事館へ大型パネル(A1サイズ)の貸出を依頼するという形を取ることも不可能ではありません。九州教区では10月に予定されている記念礼拝時に会場となる学校での展示のために貸出を受ける調整がなされているようです。

また、大使館・領事館へ大型パネル(A1サイズ)の貸出を依頼するという形を取ることも不可能ではありません。九州教区では10月に予定されている記念礼拝時に会場となる学校での展示のために貸出を受ける調整がなされているようです。

また、大使館・領事館へ大型パネル(A1サイズ)の貸出を依頼するという形を取ることも不可能ではありません。九州教区では10月に予定されている記念礼拝時に会場となる学校での展示のために貸出を受ける調整がなされているようです。



「いわき食品放射能計測所」の現在の働き

明石義信 日本基督教団常磐教会牧師



「いわき食品放射能計測所」は2012年5

月に、東北へルプの食品放射能計測所として、いわき市小名浜に事務所を借りスタートしました。そこか

業務の内容(測定や談話の場の提供など)や経済的理由から2013年7月より白水のぞみ保育園(いわき市内郷白水町)に移り、次に現在の日本基督教団常磐教会(いわき市内郷綴町)に移ったのが2014年の3月のことです。

現在の計測所の活動は時間の経過と共に取り残された危険をいかに見つけ出し除染するかという働きです。ごく最近では、九州での放射能に危機感を持つ母親たちと、同じ機材を用いた計測値の比較と変化をいち早くとらえるシステムづくりを注いでいます。

また放射能計測の必要は食品の放射性物質含有量への不安に対応する点です。計測所が併設されている、常磐教会の集会室・会堂を用いた被災者受け入れのプログラムも盛んに行われています。主なものは、双葉町からいわき市に移住してきている「いわきまごころ双葉会」という140世帯ぐらゐが参加するヨガや裁縫料理教室などが行われる月2回のグループです。この方々を対象として呼びかけられるコンサートも1年に2〜3回は開催されるようになりました。

また、いわき市に居住する母親たちの「初期被爆や低線量下での生活に不安を覚える人々と連携する」活動にも活動の場を提供し、また、対話を始めています。震災から6年が経過し、活動に参加する母親達避難者達の活動も、関心を示して支える人々が激減し

ています。その中で、活動の維持が困難になっているグループもたくさん出てきています。被災地における「絆」を作り出す場としての働きも、あと何年ぐらゐ必要とされるか分かりませんが、区切りを定めた活動目標と同時に、区切りを定め、安心して居る場所の提供が必要となつてきております。

このような表情についてご配慮くださり、継続してご支援いただけますと感謝です。

http://here-i-stand.com/en/order/と表示されるホームページの下の部分の「OTHER LANGUAGES」というコーナーからデータをダウンロードすることができます。大きなサイズのデータがあるため、ダウンロードに少し時間がかかりますが、これをプリントしてそのまま壁に貼り付ける、また、パネルに貼って掲示すると



5月14日に本郷教会で行われた「おいしいじかんフェスタ」の際には礼拝堂にてA3サイズのパネルを並べての展示会が行われました。(写真左)

※東教区プロジェクト3・11では、いわき食品放射能計測所の活動を支援しています。



宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える (61)

ルター研究所長 鈴木 浩

「聖書(によつて)のみ」と言えば、ラテン語訳聖書(sola scriptura)／ソラスクリプトゥーラという言葉葉によつてルターは何を言いたかつたのであろうか。

第1には、教会における究極的な権威は、「神の言葉」つまり聖書にある、ということであつた。ルターが聖書を手にしたのは、修道院に入つてからのことであつた。それまでは、教会で何かの折に聖書を見たことはあつたかもしれないが、それを手にとつてじっくり読む機会は、事実上、なかつたのである。

中世カトリック教会は、信徒が聖書を読むことに極めて抑制的であつた。「個人的で、勝手な解釈をされることを極度に恐れたからである。聖書の究極的解釈者は、「教導職」つまり教皇であつた。だから聖書は、事実上、「閉ざされた書物」であつた。

ルターは「神の言葉の神学者」であつた。「神の言葉」とは端的に聖書のことであつた。当時、聖書

「聖書(によつて)のみ」と言えば、ラテン語訳聖書(ウルガータ)のことであつた。当時のヨーロッパでは、知識人は総じてラテン語を読み書きすることができた。江戸時代の日本の知識人が漢文を読み書きできたのと同じことである。しかし、一般の人はそうではなかつた。だから、ルターはまず新約聖書をドイツ語に翻訳し、その後、協力者たちの支援も受けて、旧約聖書のドイツ語訳も完成させたのである。「閉ざられていた文書」であつた聖書を「開かれた文書」にするためであつた。



ルーテル世界連盟
総会を開催

「not for sale」売り物ではない)ことを確認し、環境や人権、貧困など世界的な課題の解決への歩みを共にしていく決意へと導かれました。

2017年5月10〜16日に、ルーテル世界連盟(LWF)は、アフリカ南部のナミビア共和国の首都ウィントフックにて第12回総会を開催しました。世界98カ国、145の加盟教会からの代表が集い、若者や女性の

「神の恵みによる解放」をテーマに「創世救い、人間」は神の恵みであつてお金では買えない(原題)で

「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」(マタイ6:34)

ルーテルアワー biblestudy.jp
「ルーテルアワー」のサイト
【てあなの音屋】より
今を生かされて
伊藤早奈

祈り、神様。こうあるべき。こうしたいと理想を描く時、私たちはいつしか完璧を求め、人や自分に厳しい目を向けたります。できない人や自分を否定してしまふこともあります。私を含め、どの命も大切な存在です。あなたに愛され生かされている今を、いつも神様あなたに心を向けて感謝



宗教改革500年記念礼拝(スタジアム)



会議場



ユナン前議長とユンゲ事務局長



宗教改革500年記念礼拝(ルターの紋章を描く)

「祈りを主イエス・キリストのお名前を通して前に献げます。アーメン。.....」
「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」(マタイ6:34)
私はこの仕事を始めた頃、何年仕事が続けられるのか、とても不安でした。それまでの仕事を辞めて勉強し、牧師として教会に再就職して、普通でしたら前途洋々かもしれない。しかし、私にとっては自分の病気が現代の医学では治す方法がないとき

「君に届け、神さまの愛！」
「知らなかつたけど実はこれってルターが広めたこと

第19回 ルーテルこどもキャンプ
「君に届け、神さまの愛！」
2017年8月8日(水)〜10日(金)



http://urxblue.Dr00

ルーテルこどもキャンプへのお誘い

中島経実校(恵み野教会)

今回で19回目を迎えるルーテルこどもキャンプ。小学5、6年生のこどもたちを対象に、平和について学ぶキャンプと、世界の国々について学ぶキャンプが交互に行われています。昨年は広島で平和について学びました。そして、今年度のテーマは「ゆるい」宗教改革から500年ということ。ルターのおふろさ【ドイツ】です。それにちなんで「ゆるい」のタイトルも「君に届け、神さまの愛！」ルターからの贈り物「ルターってどいつだ？」に決定しました。

ドイツと聞いてまず浮かぶものといえば何でしょう？(「ビール」と答えたそのあなたは正真正銘のルター派です！ルターさんもビール好きとして有名ですからね。)

今回もまた、お友達が来るから安心して行つてらっしゃい」と背中を押してあげてください。また、共にキャンプを支えてくださるスタッフも必要としています。リーダーは18歳からですが、ジュニアリーダーは高校生から応募が出来ます。チャプレンを始め、周りのスタッフの協力もあるので知識や経験が無くても大丈夫です。そしてキャンプを裏方で支えてくださるスタッフも募集しています。

開催日程は8月8日(火)〜10日(木)、場所は東京のルーテル学院大学/日本ルーテル神学校です。全国から集う仲間と一緒にドイツやルターのことを楽しく学びましょう。

詳しくは、以下のURLから、ご確認ください。

http://urxblue.Dr00

「君に届け、神さまの愛！」

追悼

キリストの心を心とした働き人

北尾 一郎(定年教師)



カリコスキ 牧師

フィンランド・ルーテル福音協会(SLEY)から日本福音ルーテル教会に派遣された宣教師牧師、敬愛するペンティ・カリコスキ先生が、2017年2月6日、ヘルシンキにおいて、

慕っておられた主の御許に招かれ、天の教会に移籍された。彼の「本国」である。多くの人を愛し、多くの人から愛されたペンティはその88年の生涯のうち1955年から1987年までの33年間、北海道、長野県、東京都で同労者と共に主と教会に仕えた。

追憶 ラーソン宣教師

岡田 曠吉(元教師)

ペンティはスオミの人間であることに誇りを持ち、民間外交に大いに貢献した。彼は温かく柔軟な心で日本人と日本文化を愛し、二つの文化の架け橋となつた。

ライル・ラーソン先生と初めてお会いしたのは

約22年間、大岡山教会のために働き、日本人の伴侶となつた多くのフィンランド人女性のために、「スオミセウラ」を組織して相談を受けた。教会内外の人が皆先生とて伴侶のピルッコさんとお子さんたちに心を開いた。



ラーソン 牧師

1965年、私が本郷教会の牧師として着任した時でした。先生は本郷学生センター主事として東大の学生たちや、有力な教授方と英語による交流を毎週していました。それらはただの英会話クラスというよりも、「日本文化と西欧文化の接触と学びあい」というもので、かなり奥深いものでした。

先生のもう一つの大仕事は現在の本郷教会・学生センターの建設でした。幸いヴォーリス建築設計事務所

の尽力を得て現在の建物が出来ました。完成後もなく、休暇帰国の間、ミシガン大学院で日本研究をし、学位を取得されます。本郷へ戻られた頃から「学園闘争」が東大医学部から始まり、それは安田講堂防衛と1年間の休講状態で静かになっていくのですが、その間、多くの人がやってきて黙って集会に参加していました。



ウエンツ 牧師

1970年、先生は大学講師として帰国するも、翌年再来日して東京教会の宣教師となります。2000年の夏、アメリカに先生を訪ねた折に私が共に働いた日々の自分の至らなさを

エドウィン・ウエンツ先生は、1951年にアメリカ・ルーテル教会(現ELCA)の宣教師として来日し、鹿児島教会の初代の宣教師として派遣され、鹿児

謝罪すると、「罪の赦しが必要ならば私たちは共に働くことはできないのです」と言われたことが心に残っています。

ウエンツ先生のこと

宇野 止徳(定年教師)

島、阿久根両教会の宣教に力を注ぎました。終戦から間もない頃、戦争によって傷ついた多くの日本人の魂を救うために、アメリカ及び北欧の各教会から多くの宣教師が派遣され、魂の飢え渴きを覚える人々に福音を届けました。これらの宣教師の影響を受けた人も少なくなく、後の教会形成にとつて大きな力となりました。

ウエンツ先生は、当時の宣教師としてはめずらしく、物静かで優しく教会員と共に宣教を考え、教会を形成していくことを考える先生でした。鹿児島教会から阿久根教会(当時は伝道

「カトリックとルーテルの共同声明」に学ぶ③



石居 基夫
(日本ルーテル神学校校長)

2017年宗教改革500周年
「カトリックとルーテルの共同声明」に学ぶ③

●争いから交わりへと変わっていく
宗教改革によって受けた霊的、また神学的な賜物に深く感謝しながら、わたしたちはまた、ルーテル教会もカトリック教会も教会の目に見える一致を傷つけてきたことをキリストのみ前でざんげし、悲しみます。神学的違いには偏

見と争いとが伴いましたし、宗教は政治的な結果に至る手段となりました。イエス・キリストを信じるわたしたちの共通の信仰とわたしたちの洗礼はわたしたちに毎日の悔い改めを求めています。それによつてわたしたちは、和解の務めを妨げる歴史的な争いと不一致を捨て去ることができるとは、過去の

は変えることができないのですが、何が記憶されるのか、それがどのように記憶されるのかは変えられないことです。わたしたちお互いの見方を曇らせてきた傷と記憶の癒しをわたしたちは祈ります。わたしたちは過去と現在のすべての憎しみと暴力、特に宗教の名によつて言い表されてきたそれらを強く斥けます。今日わたしたちはすべての争いを捨てるようにとの神のご命令を聴いています。わたしたちは神が絶えずわたしたちを召しておられる交わりへと向かうように、恵みによつて自由にされていることを確認しています。

【学び】
宗教改革の歴史を見るというとき、カトリック教会から見る場合とルーテル教会の側から見る場合とでは全く異なるものであつたということを覚えておかなければならない。ルーテル教会にとつては、宗教改革こそ自らのアイデンティティーを確認する神学的・霊的なルーツであり、福音の「正しい」理解を回復した出来事、カトリック教会側から見れば、それは教会の一致を乱し、多くの人が「真の」教会から奪い取られていくような出来事として記憶されてきたと言えらる。しかし、この声明ではカ

トリック教会もルーテル教会もともに、この出来事を「霊的、また神学的な賜物」をもたらしと言ひ、また「教会の目に見える一致を傷つけてきた」と言うのだ。こうしたことを両教会が共に告白できることこそ、長い対話の積み重ねのなかで、宗教改革という出来事を教派の視点というよりも神の教会の歴史のなかに見る視点に開かれて見出すことができた地帯を示しているというところだろう。

そして、そういう地平にたつて神の前に深く懺悔しなければならぬ自らの罪をしつかりと見出し、告白することへ導かれてい

るのだと思う。ただ、神の前に打ち砕かれて自らを告白する時にだけ、私たちに未来への確かな歩みをはじめめる力を得るので、そういう歩みをする時に、過去の異なることができないのですが、何が記憶されるのか、それがどのように記憶されるのかは変えられうる」と大胆に語り、新しい歴史への責任を見出していくこととなつていく。

「過去と現在のすべての憎しみと暴力、特に宗教の名によつて言い表されてきたそれらを強く斥け」と宣言する時に、両教会は単に自分たちの過去につ

訂正
本紙5月号1面「説教『天に昇られる時も』(内藤新吾牧師)の文中に「月本昭さん」とあるのは、「月本昭男さん」の誤りでした。編集時に脱字してしまいました。お詫びし、訂正します。



スウェーデン・ルンド大聖堂での「共同の祈り」

- 電話番号
045(877)5243
- 箱田清美牧師(定年教師)
〒813-0032
福岡県福岡市東区土井
3-11-39
電話番号
092(691)1168
- 山田浩一牧師
〒862-0918
熊本県熊本市東区花立
6-13-18